



薬師堂

薬師堂
かつて問屋場・高札場があり、近くに天台宗玉性院があって、宿の安全を願うお堂を建立し薬師如来を奉納したといわれる。薬師堂の右側に、国学者で檀原神社の建立にもかかわった中里遜齋墓碑がある。薬師堂の南側にこの地域の天領を支配した幕府代官支配所の代官陣屋があった。

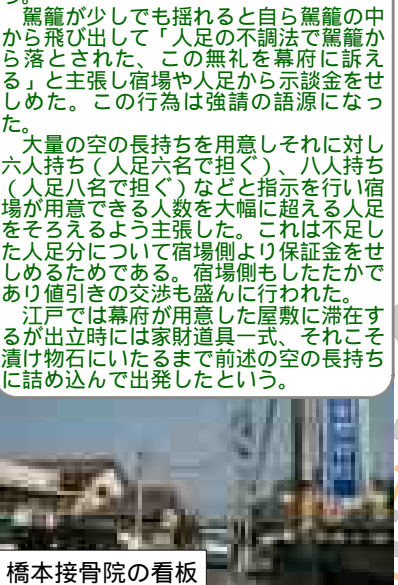


本陣跡



檀原神社

例幣使
天保3年(1846年)より、日光東照宮の例祭に派遣される日光例幣使の制度が始まった。江戸時代には、単に例幣使といえば日光例幣使をさすことの方が多かった。日光例幣使にとって、当時日光へ出向くことは大変な「田舎道中」であり、一刻も早く行って奉納を済ませて帰りたいという心理があり、また道中で江戸を経由することとなると幕府へのあいさつなど面倒も多かったため、例幣使は東海道・江戸を経由せず、中山道から倉賀野宿から例幣使街道という内陸経由で日光へ往復した。日光例幣使は普段は貧乏な下級公家であるが道中では朝廷と幕府の権威を一身に背負ったので大変な権勢を誇った。公務であるため宿場や助郷村は無賃で道中に協力させられ大変な迷惑を被ったという。駕籠が少しでも揺れると自ら駕籠の中から飛び出して「人足の不調法で駕籠から落とされた、この無礼を幕府に訴える」と主張し宿場や人足から示談金をせしめた。この行為は強請の語源になった。大量の空の長持ちを用意しそれに対し六人持ち(人足六名で担ぐ)、八人持ち(人足八名で担ぐ)などと指示を行い宿場が用意できる人数を大幅に超える人足をそろえるよう主張した。これは不足した人足分について宿場側より保証金をせしめるためである。宿場側もしたたかであり値引きの交渉も盛んに行われた。江戸では幕府が用意した屋敷に滞在するが立出時には家財道具一式、それこそ漬け物石にいたるまで前述の空の長持ちに詰め込んで出発したという。



橋本接骨院の看板

ニュー小山ゴルフガーデン



新宿北口の石仏群

新宿北口の石仏群
分岐点から分かれた旧道に入ると、旧道はゆるやかに右カーブしながら北に向かう。その曲がり角付近の倉庫脇に石仏が並んでいる。寛政12年(1800)の馬頭観音と宝暦2年(1752)の六十六部供養塔が建っている。馬頭観音は新宿講中の建立で「左おさく、こくぶんじ」と記し、供養塔は「左おさく、こくぶんじ」と記し、いずれも道標を兼ねている。



檀原神社(星宮)

檀原神社(星宮)
江戸時代の絵図には、「星宮」と記されているが、明治5年(1872)に神武天皇を鎮座崇敬したいとの村役人の願いにより檀原神社になったといわれる。参道奥が檀原神社、その左が星宮です。明治39年(1906)4月25日、東北線の列車の飛び火によって焼失、再建。神社参道の入口を少し北に進むと、まもなく川中子村に入り、新宿はここで終わる。



本陣跡

本陣跡
西側道路沿いに古風な四脚門があり、ここが新宿の本陣跡と伝えられている。『日光道中分間延絵図』ではこの付近に問屋場や高札場が記されている。向かい側が本陣跡となっている。この付近が新宿の中心部だった。



45 小山宿 ~ 新宿
栃木県小山市
羽川 ~ 新宿
(歩行距離 1838m 25分)
歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp

13 新宿
「開発の年代詳ならず。始は芋柄新田(いもがらしんでん)といひしが、宿駅となりてより新田町、或は新宿ととなふ。今も地方(じかた)につきし事は大門新田ととなふるよし」(日光道中略記)
新田(しんでん)宿は、江戸から13番目の宿場。ここは芋柄新田・大町新田・大町村とも呼ばれた。天保14年(1843)の日光・奥州・甲州道中宿村大概帳では、町並みの長さが3町(約330m)。家が59軒(旅籠が11軒、本陣・脇本陣・問屋場が各1軒)、宿の人口は244人(男127人、女117人)、駄馬・賃銭 荷物一駄・乗掛荷人共36文、軽尻馬1疋23文、人足1人18文でした。日光街道では最も小さな宿で人家が少なかったため、近隣の半田村・新井村も宿場の勤めをした。「宿入口往還より左の方、曠野にて日光山・赤城山・大平山などの眺望最よし」(日光道中略記)宿場の東側には野が広がっていて、「日光山、赤城山、大平山などの眺望最よし」といわれた。

羽川の大沼
喜沢村と羽川村との境界付近にある大沼。江戸時代の絵図にも描かれている。大沼は、国道4号・東北新幹線の東側にある。南北に長く東西はやや狭い、大正以前より「イモガラ溜」と称し、周辺にあった大小溜池とともに用水補給に利用されていた。大正7年(1918)の耕地整理事業により大正8年(1919)1月竣工、水源より小山町に至る幹線用水路と溜池の採掘・改修により、同年5月に通水される。昭和に入り、国分寺地域の開田が進むにつれ、溜池の水量が減少し、溜池の効率の低下のため、土手がさ上げなどの改修を加えながら機能を維持してきた。平成6年(1994)から、老朽化による漏水等を一体的に改修し、貯水機能だけでなく、憩いの場・あそびの場としての整備が進められ、平成14年(2002)3月に完成。周囲1.4km。